

## 地理歴史科（日本史探究）学習指導案

## 1 単元名 院政と武士の躍進

この単元は、「2 内容」の「B 中世の日本と世界」の「(1) 中世への転換と歴史的転換」に該当する。

## 2 単元目標

- (1) 貴族政治や土地制度の変容に関わる諸資料から情報を読み取ってまとめ、古代から中世における国家・社会の変容を理解する。
- (2) 武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を、土地の支配や所有がもつ当時の意味を踏まえて考察し、表現する。
- (3) 中世という時代を通観する問いを立て、学習の見通しをもつ。

## 3 単元計画（全体 7 時間）

## (1) 指導計画

- ・院政のはじまり 3 時間
- ・院政と平氏政権 3 時間
- ・院政期のまとめ 1 時間(本時 7/7)

## (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・貴族政治や土地制度の変容に関わる諸資料から情報を読み取ってまとめ、古代から中世における国家・社会の変容を理解している。	・武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を、土地の支配や所有がもつ当時の意味を踏まえて考察し、表現している。	・中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究する。

## (3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (3)	【学習課題】<単元を貫く問い>「院政とはどのような政治であったか。また、社会にどのような影響を与えたか」 【学習課題】「院政とこれまでの政治体制との違いは何か」 ・院政のはじまり	【ねらい】院政の在り方を資料から理解する。	●			【知】 (B) 史料に書かれている内容から院政の在り方を理解している。	・ロイロノートへの記述を基に評価する。
第2次 (3)	【学習課題】 「保元・平治の乱は社会にどのような影響を与えたか」 ・院政と平氏政権	【ねらい】保元・平治の乱について理解し、この反乱が社会に与えた影響を考察する。		●		【思】 (B) 乱後の社会変化について考察している。	・授業プリントの記述を基に評価する。
第7次	【学習課題】「院政を評価する」 ・院政期のまとめ	【ねらい】学習内容を振り返り、院政の特徴を捉え、その在り方を評価する。			○	【思】 4(3) 参照	・ロイロノートの記述を基に評価する。

## 4 本時の指導と評価の計画

## (1) 本時の目標

ア 院政が社会に与えた影響について考察する。

イ 「天皇家」「貴族」「武士」「土地」「民衆」など、さまざまな視点に立ち、多面的に「院政」について考察する。

## (2) 本時の展開 (1時間分)

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・院政期の出来事	・院政の内容を確認する。	
展開	・院政の評価	・これまでの学習内容を踏まえて、院政が当時の社会に与えた影響を各視点から整理し、社会に与えた影響から院政を評価する。	・グループで視点の整理ができたところで、各自視点を選び、社会にどのような影響を与えたのかを考察させる。
まとめ	・振り返り	・ロイロノートを使って自らの考えをまとめ、提出する。	○学習課題に対する記述 【思考・判断・表現】

## (3) 本時の評価規準

ロイロノートの記述内容【思考・判断・表現】

院政の登場によってどのような影響を社会に与えたかを考察している。
----------------------------------

判断基準

「おおむね満足できる」状況 (B) と判断される例

・院政が社会に与えた影響を、貴族社会の変容や武士との関係を踏まえて考察している。
--

「十分満足できる」状況 (A) と判断される例

・院政が社会に与えた影響を、貴族社会の変容や武士との関係を踏まえて多面的に考察している。
--

「努力を要する」状況 (C) と判断される例とその生徒への支援

・院政が与えた影響を考察できていない。→授業を振り返り、院政が社会に与えた影響を考察できるよう支援する。
--

## 5 成果と課題

学習内容を踏まえて、一つのテーマについて考えをまとめることにした。院政は難しいテーマであるが、視点を整理するというスモールステップを踏んだことで、生徒は多面的に考察することができたと考えている。

一方、課題としては、視点の整理にかなりの時間が必要なことである。今回も視点の整理に時間を要した結果、生徒がまとめを記述する時間が短くなってしまった。多くの生徒は授業内で完成させることができず、別日にもう一度まとめる機会をとることになった。次年度は授業計画をきちんと立て、家庭学習の時間も含めて生徒が自らの考えを深め、まとめられるような工夫が必要である。また、今回は視点の整理をすることを教員側から提示をしたが、視点が違うと捉え方も変わるということに気付かせるような仕掛けができたならよかったと考えている。「視点を変えれば見方が変わる」ということは、学習だけでなく生徒の生活においても非常に重要なことなので、そのことに生徒自ら気付くとよい。今後も多面的に考察する力を養えるよう授業改善に取り組んでいきたい。